

東愛知カラーニュース

エンジン音を響かせながらチェックポイントに立ち寄る名車―豊橋市役所で



東三河を駆け巡る 憧れの名車たち

「ヒストリックカーミーティング」開幕

古き良き時代の名車が一堂に集い、東三河を駆け巡る第7回「ヒストリックカーミーティング」(同実行委員会主催、東愛知新聞社など後援)が11日、豊橋市神野新田町のホテルシーパレスリゾート芝生広場をスタート地点に始まった。初日は国内外の名車45台が出場して、豊橋市や新城市などの公道をさっそうと走り抜けた。12日まで。(天野武宏)



「ようこそ東三河へ」。名車の到着を手旗を振って

歓迎する見学者たち―同

東三河では、昨年に続き2回目の開催。今回は色とりどりのスポーツカーや重厚なボディの高級車などが登場。中でも全国で数少ないBMW327-2(1952年)やアーノルト・フリストール(1954年)など憧れの名車がイベントに華を添えた。

大会はタイムラリー形式で行われ、ドライバーは、助手席の恋人や友人のアドバイスを受けながら走行した。また制限時間内で決められた距離を正確に走る「PC競技」にもチャレンジした。

このうち豊橋市役所正面玄関には、大勢のマニアや家族連れらが集まり、名車が到着すると手旗を振って熱烈に歓迎。同市大崎地区のしおかぜ太鼓の子どもたちも和太鼓を打ち鳴らして応援した。

12日は午前9時に同ホテルをスタート。蒲郡市の蒲郡港第一ふ頭、豊川市のおいしい広場などに立ち寄りながら、ゴールの同ホテルを目指す。

また本紙選出の第33代ミスみなと港の女王・山田希さん、船の女王・鈴木和子さんもゴール地点に駆け付け、名車を出迎える。